

スイートウィリアムズ スイート・シリーズ

特別な低温処理は不要。秋咲性のあるバルバタス系ダイアンサス

学名: *Dianthus barbatus*
種子粒数の目安: 1,200-1,700 粒/グラム

プラグ生産ステージ

プラグトレイサイズ

406 穴前後のプラグトレイを推奨します。プラグ生産の期間は約 4 週

培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いましょう。土壌 pH を 5.8-6.2、電気伝導度(EC 値)*を 0.75mmhos/cm*に調整します

播種

粗めのパーミキュライトで覆土をし、発芽環境保持のため湿度を高い状態に維持しましょう。チャンバーで発芽させる場合は、芽切りしたら遅滞なく取り出します。適切な時期に取り出して光に当てることが、質の高いプラグ苗の生産につながります。放置し続けると苗がすぐに伸びてしまうので注意しましょう

育苗温度

発芽期: 18-20°C
子葉展開後: 18-20°C(昼間)、15°C(夜間)
本葉展開後: 15°C(昼間)、13°C(夜間)

照度

電照等による補光は不要です

湿度

発芽期間中は 95-97%の相対湿度を維持します

肥料

肥料はステージ 3 から開始。週 2 回 14-0-14(あるいは同系の比率の肥料)を 50ppm(N)で与えます。本葉が発達してきたら、濃度を 100ppm(N)に上げ、プラグ生産のステージが終了するまで続けましょう。EC 値*は、0.75mmhos/cm(1:2)、土壌 pH は 5.8-6.2 を維持します

矮化処理剤(PGR)

ポット用の生産ではステージ 3 で、ボンザイ 60ppm を葉面散布します

ポット上げから出荷までのステージ コンテナサイズ

15cmのポットに 3 本植えが最もバランスよく仕上がります。1 本植えの場合は、10.5cmくらいが適切

培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いましょう。土壌中の初期肥料は中庸で、pH5.8-6.5 を維持します

生育適温

株がポットでしっかり根付くように、移植後の 2 週間は昼間温度を 18-21°C、夜間温度を 15°Cの範囲をできるかぎり維持しましょう。後半の出荷が近くなったら、昼間が 15-21°C、夜間が 13°Cに下げて株を固く仕上げます。根がしっかりと張っていれば、多少の低温には耐え得る植物です

肥料

移植後、1 週たったら 14-0-14(あるいは同系の比率の肥料)を 150ppm(N)で週 1、2 回与えます。EC 値*は、0.75mmhos/cm(1:2)、土壌 pH は 5.8-6.2 を維持します。ダイアンサスは十分なカルシウムを必要とする植物なので、適宜与えましょう

矮化処理剤(PGR)

スイートは矮化剤の反応がとてもよい品種なので、実際に用いる前に希釈や時期について試験的に試された方がよいでしょう。一例としては、ボンザイの 20ppm を 2、3 回、移植後 2 週を目安に葉面散布します。その後の株の状況を見ながら、必要であれば 2 週おいてから再度、与えましょう。これは一例なので、環境や条件によって反応が異なります。一度、矮化剤を与えたら、10 日から 14 日は間をおいた方がよいでしょう

平均的な生産期間

播種から鉢上げ: 4 週(406 穴トレイ)
播種から出荷(開花): 12-13 週(春/夏出荷)
播種から出荷(開花): 14-18 週(秋出荷)

管理中の病害虫や障害

害虫: 初期にアブラムシが多くつくことがあるので注意が必要

注意点*: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります